

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 3 部門第 2 区分
 【発行日】 平成 18 年 1 月 26 日 (2006.1.26)

【公表番号】 特表 2005-519035 (P2005-519035A)
 【公表日】 平成 17 年 6 月 30 日 (2005.6.30)
 【年通号数】 公開・登録公報 2005-025
 【出願番号】 特願 2003-548857 (P2003-548857)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 31/7115 (2006.01)
A 6 1 K 31/7088 (2006.01)
A 6 1 K 39/00 (2006.01)
A 6 1 K 45/00 (2006.01)
A 6 1 K 48/00 (2006.01)
A 6 1 P 15/18 (2006.01)
A 6 1 P 31/04 (2006.01)
A 6 1 P 31/12 (2006.01)
A 6 1 P 33/00 (2006.01)
A 6 1 P 35/00 (2006.01)
A 6 1 P 37/02 (2006.01)
A 6 1 P 37/04 (2006.01)
A 6 1 P 43/00 (2006.01)
A 6 1 K 38/00 (2006.01)
A 6 1 K 38/27 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/7115
 A 6 1 K 31/7088
 A 6 1 K 39/00 H
 A 6 1 K 45/00
 A 6 1 K 48/00
 A 6 1 P 15/18
 A 6 1 P 31/04
 A 6 1 P 31/12
 A 6 1 P 33/00
 A 6 1 P 35/00
 A 6 1 P 37/02
 A 6 1 P 37/04
 A 6 1 P 43/00 1 0 5
 A 6 1 P 43/00 1 2 1
 A 6 1 K 37/02
 A 6 1 K 37/36

【手続補正書】
 【提出日】 平成 17 年 12 月 2 日 (2005.12.2)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 0 1 8 5
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【0 1 8 5】

一つの側面において、本発明は、主体における寄生虫感染を予防する方法であって、寄生虫に暴露される前に寄生虫感染を予防するのに有効な量の dI/dU 含有ODN、とりわけ少なくとも下記式： $5'X1C(dI/dU)X23'$ （ここで、該オリゴヌクレオチドは少なくとも6つのヌクレオチドを含み、Cおよび dI/dU は非メチル化されており、X1およびX2はヌクレオチドである）を含む配列を有するオリゴヌクレオチドを、寄生虫に感染するおそれのある主体に投与することを含む方法に関する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0234

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0234】

本発明の dI/dU オリゴヌクレオチドは、少なくとも下記式： $5'X1C(dI/dU)X23'$ を含む配列を有するのが好ましい。一つの好ましい態様において、本発明は、少なくとも下記式： $5'N1X1C(dI/dU)X2N23'$ （ここで、少なくとも1のヌクレオチドが連続した $Cp dI/dU$ を隔てている；X1はアデニン、デオキシイノシン/デオキシウリジン、またはチミン；X2はシトシン、アデニン、またはチミン；Nはあらゆるヌクレオチドであり、N1およびN2はそれぞれ約0～25のN'からなる核酸配列である）により示される $Cp dI/dU$ オリゴヌクレオチドを提供する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0261

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0261】

ペプチド：ニワトリ卵アルブミンのMHCクラスI（H-2Kb）拘束エピトープであるOVA₂₅₇₋₂₆₄-ペプチド（SIIINFEL）（Rotzschkeら、1991）を標準固相Fmoc合成法を用いて合成し、HPLC精製し、ついで純度を質量分光法により分析した。投与量：300 μ g/マウス。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0262

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0262】

ポリ-L-アルギニン60（pR60）：平均重合度が60アルギニン残基のポリ-L-アルギニン；SIGMA chemicals。投与量：100 μ g/マウス。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0268

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0268】

第0日目にマウスの後肢に上記化合物を含む全量100 μ l（各足当たり50 μ l）を注射した。注射4日後に動物を屠殺し、膝窩リンパ節を回収した。リンパ節を70 μ m細胞濾過器に通し、5%ウシ胎仔血清（FCS、SIGMA Chemicals）を含むDMEM培地（GIBCO BRL）で2回洗浄した。細胞をDMEM/5%/FCS中に 3×10^6 細胞/mlに調節した。IFN- γ ELISPOTアッセイを記載に従って（Miyahiraら、1995）3回行った。この方法は、抗原特異的なT細胞の定量を可能にする方法として広く用いられているものである。リンパ球を培地バックグラウンドー対照、OVA₂₅₇₋₂₆₄-ペ

プチドまたはコンカナバリン A (ConA) でイクスビボにて刺激した。単一の I F N - g 産生 T 細胞を表しているスポットをカウントし、全ての試料からバックグラウンドスポットの数を差し引いた。ConA で刺激した後に検出されるスポットの数が多いことは (データは示していない)、使用したリンパ球が良好な条件にあることを示している。マウスの各実験群に対してスポット数 / 1×10^6 細胞を図 1 に示してある。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 8 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 8 6】

w d i d i n : チオホスフェート置換 O D N : n h h h h h w d i d i n n h h h h h h h h w n を NAPS GmbH、ゲッチングゲンにより合成。投与量 : 5 ナノモル / マウス。